

## 会 議 録 要 旨

会 議 名	平成28年度 第3回藤沢市下水道運営審議会	
開 催 日 時	2016年(平成28年)7月26日(火)午前10時00分～午前11時33分	
開 催 場 所	藤沢商工会館ミナパーク502会議室	傍聴者数 0人
出 席 者	会 長	山崎 仁
	委 員	石澤 仁子・井上 美鈴・菊田 稔 田中 輝子・永島 柳子・布川 晃・山口 耀子
	事 務 局	田代部長 土木計画課：鈴木参事・平本補佐・小野寺・小川・村田・吉原・三澤 下水道整備課：張ヶ谷課長・坪井補佐 下水道施設課：浅場参事・真間主幹 浅井辻堂浄化センター長・中丸補佐 加藤大清水浄化センター長・一ノ瀬補佐 土木維持課：北村参事・平田主幹・鈴木専任補佐 下水道業務課：広田参事・齋藤主幹・山本補佐
議題及び公開・非公開の別	1 藤沢市下水道使用料の見直しについて 2 その他 (1) 下水道運営審議会のスケジュールについて <span style="float: right;">(すべて公開)</span>	
非公開の理由		
審議等の概要	<p>○審議の前に、前回審議会の質疑について回答。</p> <p>①類似団体比較で経費回収率106%と資本費算入率11%となる要因を当該市に確認。H24年度以降順次下水道使用料金の値上げしていることや、処理場をもつておらず流域処理のためスケールメリットが働き汚水処理原価が低いことによる。</p> <p>②今後老朽化対策を進めると老朽化率は、H26年度末4.31%、H31年度末9.27%となる見込み。(約5ポイント増加)老朽化対策を行わない場合は9.33%となる。</p> <p>○前回審議会資料の改訂版の説明 第2回審議会資料2-1、同資料3-1の訂正箇所について説明。</p> <p>1 藤沢市下水道使用料の見直しについて 下水道使用料の見直しの考え方、具体的な目標、管路・施設の予防保全型維持管理の推進、継続の必要性、また、老朽化が進んだ場合の市民生活への影響について説明。さらに、見直し項目別の「下水道使用料の不足額」について説明。</p> <p>質疑</p> <p>①資料1P8 道路陥没件数は、H23.3.11の大震災の影響があったのか。 《回答》大震災による影響については、不明。ただし、H23年度の料金改定以後、管路の調査を進めたことにより陥没件数は減少しています。</p> <p>②下水道が機能停止した場合、市民はどう対応するのか。 《回答》現在、業務継続計画(BCP)を策定中で、この計画により藤沢市の地区別に、使用できる地区とできない地区が明らかになります。緊急時、使用制限が必要となる場合は市民へ使用を控えるお願いをすることになります。</p> <p>③人口減少により使用量が減少すると、1人あたりの負担は増えてしまう。使用量が減ると使用料金が上がってしまうことについてどう考えるか。 《回答》核家族化や節水機器の普及により、世帯当たりの汚水量の減少がみられます。その一方で、藤沢市では、世帯数の増加が当面見込めることから、汚水量の減少は相殺され、使用料の落ち込みについては抑えられているものと考えております。</p>	

<p>審議等の概要</p>	<p>④管の機能が低下しないよう、工場など水質の悪い汚水を排出する事業所から割増料金をとるのはどうか。  《回答》藤沢市では、工場などの排水については厳しい規制（水質規制）をかけています。汚水を排除する前に規制しているため、水質に応じた使用料はとっていません。また、事業場の抜き打ち検査も行っており、監視・指導を実施しています。</p> <p>⑤管の損傷の予兆などを把握するため、日々道路状況のチェックなど行っているのか。  《回答》昨年度から、緊急輸送道路や広域避難場所へアクセスする道路について、アスファルト舗装の路面下空洞調査を実施しています。</p> <p>⑥市民に対し、地区ごとに将来改築するための目的で費用を積み立てる（受益者負担）ことはできないのか。  《回答》必要な料金体系で、公平性を求めています。</p> <p>⑦井戸水の利用者は下水道使用料を払っていないのか。  《回答》事業場については申告により、個人については申告もしくは世帯人数に応じて使用料の徴収を行っています。</p> <p>&lt;結果&gt;  下水道使用料の改定項目の、資料1 P74①下水道使用料の収入減少分と②管路の予防保全型維持管理費用分については、やむを得ないものとして理解が得られた。  ③資本費算入率を100%にするかどうかについては、次回に審議することとした。</p> <p>2 その他  （1）下水道運営審議会のスケジュール変更を説明。  第5回 9/12（月）→9/9（金）</p>
<p>その他</p>	